



多治見市 産業・観光 振興計画

R2.4.1 - R6.3.31

多治見市 経済部



モザイクタイルミュージアム
MOSAIC TILE MUSEUM
Tajimi



多治見市
美濃焼ミュージアム
Mino Ceramic Art Museum, Tajimi
〒507-0801 岐阜県多治見市（東川）1-4-27 TEL. (0572-29-1191) <http://www.wzj-mi-bunka.or.jp/minoyak-museum>



TAJIMI 80TH
多治見市創設80周年

1 計画策定の趣旨

多治見市産業・観光振興計画は、多治見市の経済政策、特に総合計画に位置付けられた事業の推進を目的として策定しており、本計画は、第6期目の計画となります。

これまでの計画により、中小企業支援、創業支援、企業誘致、美濃焼振興、観光促進、農業振興等の各分野において、一定の成果を上げてきました。

今回の計画では、これまでの成果を土台として更なる躍進を目指すこと、新たな社会的課題の解決を図ることを念頭に置き、策定いたしました。

2 策定手順

本計画は、有識者や民間事業者等、計12名の策定委員から成る「多治見市産業・観光振興計画策定委員会」（以下「策定委員会」）によって策定しました。これまでの計画の評価から、地域経済の現状を踏まえて活発な意見交換を行い、今後の多治見市の経済活性化のために真に必要な事業、政策について検討を行いました。

3 計画の体系と運営

本計画は、第7次総合計画を上位計画とし、産業・経済部門の基本計画として位置付けています。

- (1) 計画期間 令和2年度～令和5年度（総合計画と連動）
- (2) 進行管理 第7次総合計画の進行管理と一体的に進める。
社会経済への対応をスピードアップさせるべく、毎年度戦略を策定する。
- (3) 評価 多治見市産業観光振興計画策定委員会による。



4 第7次総合計画との連携

基本方針を、第7次総合計画の柱の一つである「にぎわいと活力のあるまちづくり」とします。また、多治見市総合計画審議会からの答申から次の5つの項目について共有します。

- 誘致した企業と地元企業との連携、中小企業の事業承継支援や創業支援など、経済を活性化させる事業を拡充していただきたい。
- 移住の促進やまちのにぎわいが増すような多治見駅南地区市街地再開発事業にしていきたい。
- リニア中央新幹線の開通を見据えた、観光振興策を強化していただきたい。
- 女性や高齢者の再就職の促進など、多様な「人財」を育成するための仕組みづくりを支援する取組を進めていただきたい。
- 郷土の歴史や文化を後世に伝えていくため、文化財の保存・活用を推進していただきたい。

5 現状分析

(1) これまでの計画による成果

産業振興	企業誘致	中心市街地	美濃焼	観光	農業
①「き」業展、企業お見合い、たじみビジネスプランコンテスト、起業支援等による産業振興。 ②多治見市中小企業・小規模企業振興条例を制定。	①アマゾン、トヨタ、トヨタ紡織、日本ガイシ等、大手を含む27社の誘致に成功。 ②進出企業と共に職業体験、社会科見学などの地域貢献事業や企業間交流事業を実施。 ③高田テクノパークの事業決定	①中心市街地活性化基本計画を策定、地方再生コンパクトシティのモデル都市に選出。 ②空き店舗対策に関する補助制度の創設。たじみビジネスプランコンテストによる出店増。 ③多治見まちづくり株式会社を都市再生推進法人として認定。	①美濃焼祭の開催 ②テーブルウェアフェスティバル・建築建材展への出展支援 ③国際陶磁器フェスティバルの開催 ④陶磁器意匠研究所による担い手の育成。 ⑤オープンファクトリー整備 ⑥美濃焼タイル施工補助創設	①本町オリベストリート、うながっぱの誕生 ②モザイクタイルミュージアム開館 ③観光協会の法人化 ④東美濃地域の広域観光事業(半分、青い。五平餅マップの作成、MEETS HIGASHIMIOの実施	①廿原ええのおマイクロ野菜研究など、新たな分野の事業化。 ②新規就農者（もみじかえで研究所・トマト農園）

(2) 多治見経済の現況

- ① **人口減少** 多治見市の人口は、111,292 人(H30.4)。前年同月 112,145 人から 853 人減少。中心市街地の人口は、8,330 人(H30.4)、前年同月から3%の増加。また、昼間人口、特に通勤者については、依然として流出者が多いものの、多治見への流入が、13,565 人(H22)から 15,069 人(H27)に増加。多治見から市外への流出については、26,933 人(H22)から 25,620 人(H27)に減少。
- ② **中心市街地通行量** 全エリアで増加。※多治見まちづくり(株)の通行量調査より(毎年 11 月に実施)
 - ・駅前商店街 <休日>(H29) 5,591 人→(R 元) 7,128 人、<平日>(H29) 7,318 人→(R 元) 7,889 人
 - ・ながせ商店街 <休日>(H29) 619 人→(R 元) 1,316 人、<平日>(H29) 726 人→(R 元) 1,360 人
 - ・オリベストリート <休日>(H29) 807 人→(R 元) 869 人、<平日>(H29) 908 人→(R 元) 1,192 人
- ③ **地域内循環※** 地域経済循環率(※)は 77.7%(県内 21 市中 17 位 RESAS 2013 年より)
多治見市は、平均よりも大幅に値が低い。地域経済の構造特性としては、他地域から流入する所得が多く、また、他地域への支出が多いという特徴がある。
※ 地域経済循環率とは、生産(付加価値額)を分配(所得)で除した値。
- ④ **付加価値額** 年間 1 人あたり、第1次産業 164 万円(1,285 位)、第2次産業 368 万円(1,628 位)、第3次産業 808 万円(287 位)(全国 1,719 市町村中。RESAS 2013 年より)
- ⑤ **陶磁器産業** 陶磁器・タイル関係製品の出荷額は、231,539 百万円(H3) から 62,030 百万円(H28)まで減少。
一方、シェアは、39.2%(H3) から 54.1%(H28)まで増加。
- ⑥ **有効求人倍率** 平成 29 年 11 月から 2 倍を超える状況が続いており、採用難が深刻。
※ 参考 2.27 倍(R 元.11、多治見管内)
- ⑦ **観光入込み客数** モザイクタイルミュージアムの開館により増加傾向。国際陶磁器フェスティバルの開催年度を除いて比較すると、1,231,691 人(H27)から 1,380,782 人(H30)に増加。



6 課題と解決

現状分析から、今後多治見市が経済政策を推進するうえで、プラス要素となりえる「強み」と、克服する必要がある課題を「弱み」として、以下のとおり整理しました。

強み(プラス要素)	弱み(マイナス要素)
① 駅南市街地再開発事業 ② モザイクタイルミュージアムへの集客 ③ 企業誘致による企業増及び関連企業の市内進出 ④ 飲食店の活性(店舗数、付加価値額) ⑤ オープンファクトリー整備 ⑥ 美濃焼を土台にした歴史・文化(資源) ⑦ 陶磁器意匠研究所による研究生の育成、外国人研究生の受け入れ ⑧ ながせ商店街の拠点施設「ヒラクビル」のオープン ⑨ マネジメント型まちづくりファンド創設 ⑩ 多様なクリエイターによる出店、まちづくりへの参加 ⑪ 廿原ええのお・もみじかえで研究所等の新しい農業・担い手の創出 ⑫ 多治見への流入人口(愛知県・名古屋市から)の増加 ⑬ 陶磁器・タイル業界での女性活躍	① 商店・事業主の高齢化と後継者不足 ② 地域内消費の低迷 ③ 商店街組織の弱体化 ④ 商店街の空き店舗・休業店舗の増加 ⑤ 中心市街地物件等の老朽化 ⑥ 公共交通機関、駐車場の不足 ⑦ 市内事業者の採用難 ⑧ 生産年齢人口の流出 ⑨ 周辺自治体への大型複合店の出店による顧客流出 ⑩ ロードサイド店・チェーン店による都市部へのお金の流出増 ⑪ 美濃焼の低付加価値

- ★弱み(マイナス要素)は、今後対策を講じる必要のある「課題」とする。
- ★強味(プラス要素)は、課題に対する対策の足掛かりとして「活用」する。

課題は

- ① にぎわいを更に広げること・・・「にぎわい」
- ② 多治見の産業を担う人財の育成と確保・・・「人財」
- ③ 域内消費の拡大・・・「地域ブランド」
- ④ 地域企業の競争力の強化・・・「き」業

7 策定委員意見（敬称略）

名古屋学院大学 学長 小林 甲一 さあ、多治見のいまを映すように、元気な戦略がいっぱい詰まった計画ができ上がりました。でも、計画にとって本当の本番はこれからです。その先には、多治見にとって新しいステージが開けているような予感がします。	多治見商工会議所 経営支援員 長谷川 伸樹 今後の多治見市の顔が見えてきました。 特に多治見駅周辺の再開発による東濃の正面玄関としての表情が目に見えます。 この計画が実現され、さらに魅力ある多治見市が発信できると思っています。
アンファッションカレッジ 校長 安藤 貴久子 産業と観光を結び付けて発展させるためにも、現在ある施設、街の景観も含め多治見市全体を俯瞰して計画し、住む人、訪れる人も陶器の町ならではの特徴と魅力を今以上に感じることができ町づくりを！	新町ビル 代表 花山 和也 委員としてはじめて参加させて頂きましたが多様な意見や視点があり勉強になる事の方が多かったです。市民の方や同世代以下の方にも本委員会で行われる内容を伝えていく事も必要だと感じました。
陶都信用農業協同組合 経済部 部長 水野 吉衛 陶磁器を季節で食器を変える等の食に関わる文化に融合させることや、農業関係では、異業種参入と暑い多治見の米の優位性の確立が、これからの多治見の発展に寄与すると思います。	公益財団法人多治見市文化振興事業団 理事 高木 正典 時代の変化をチャンスと捉え、果敢に挑戦することで可能性は広がります。毎年度戦略を策定するという機動性に富んだ進行管理により、活きた計画として力を発揮し、その成果が明るい未来に繋がることを期待します。
有限会社 鈴研陶業 代表取締役 鈴木 耕二 私は市内高田町にて、地場産業であるタイル製造を行っています。多治見市にはやきものの素晴らしい文化が産業として根付いています。多治見市内外の皆様が産業があって良かった、来てよかったと思って頂けることを願っています。	多治見まちづくり株式会社 小口 英二 この計画の意義を多くの企業・市民の皆さんに知っていただくことを期待します。 知っていただいた結果、地域内での経済循環が活性化し、多治見が元気になることを願います。
ギャラリーヴォイス エグゼクティブディレクター 川上 智子 多治見市らしさの発信に欠かせない大切なキーワードは、やはり「やきもの」だと思います。その「やきもの」文化に惹かれて他の地域から移り住んだ人たちの熱い想いを、私たちが受け止め、活かしていくことが、多治見市の産業・観光に必要だと思います。	POLAエステイン紗ら グランドオーナー山下 真美子 歴史ある文化や伝統を、また新しい形やアイデアで盛り上げていこうと活動されている方が多治見市にはたくさんいらっしゃいます。市の事業とうまく連携をとって、それぞれの工夫と協力で街の賑わいを作っていけるようになるといいです。
東濃信用金庫とうしん地域活力研究所 エリアサポート課 課長 伊藤 健 産業・観光振興の実務に携わる方々と、具体的な振興策について議論できました。 今後、振興計画に基づき、多治見市の更なる「にぎわいと活力の創出」に向けて、委員会メンバーの方々も含めた官民連携をより強化して取り組んでいきます。	株式会社オザワモザイクワークス 小澤 枝里子 地域活性化の為に、地場産業（タイル）を広く知ってもらうことが必要です。モザイクタイルミュージアムとの連携で発信力やイベントなど、楽しいオシャレな町をアピールし、外からも中からも人が集まる場になってほしいです。

A-I にぎわい

目的

交流・観光・移住定住により、ヒトのにぎわいを拡充させる

活用

- a 駅南再開発事業による活性化
- b モザイクタイルミュージアムへの集客
- c ヒラクビルのオープン
- d たじみビジネスプランコンテスト事業・マネジメント型まちづくりファンド
- e 広域観光の連携

事業

- ① 中心市街地への出店促進
(空き店舗対策・ビジネスプランコンテスト)
- ② 企業誘致による移住定住促進
- ③ 着地型観光イベント
- ④ グリーンツーリズム
- ⑤ (一社) 多治見市観光協会の機能強化

A にぎわい戦略

ヒト・モノ・サービスの
賑わい拡充

A-II 地域ブランド

目的

ブランド力の向上と域内循環の促進により、地域を繁盛(モノとサービスのにぎわい)させる

活用

- a 第3次産業の高付加価値
- b セラミックバレー振興補助金
- c 業界団体等の女性活躍
- d 美濃焼を核とした産業、永保寺・修道院等の歴史や文化、三千盛
- e 廿原ええのお・もみじかえで研究所等の新しい農業・担い手の創出
- f 陶磁器意匠研究所の3Dプリンター

事業

- ① セラミックバレーによるブランド化
- ② 美濃焼の高付加価値化・ブランディングによる商品の魅力アップ
- ③ 農業の新しい事業者を主体とした6次産業化
- ④ オープンファクトリー
- ⑤ 国際陶磁器フェスティバル

基本方針

「にぎわいと活力のあるまちづくり」

基本戦略

いまの多治見の強みと弱みを見つめ直し、
地域経済のステップアップをはかる

B-I 人財

目的

人財育成としごとづくりにより、地域の人的資源を元気にする

活用

- a 企業誘致による企業増及び関連企業の市内進出
- b 商工会議所・商工会・東濃信用金庫等関係機関との連携体制
- c 美濃焼を核とした産業・歴史・文化
- d 陶磁器意匠研究所による研究生の育成、外国人研究生の受け入れ
- e 多治見への流入人口(愛知県・名古屋市から)の増加
- f 最近増加傾向にある若手クリエイターによる出店、イベント促進

事業

- ① 多治見で働くプロジェクト
- ② 多治見の魅力発信・PR
- ③ 陶磁器意匠研究所の人財育成・卒業生の市内定着への支援
- ④ 企業誘致による魅力的な就職先の確保

B 活力戦略

ヒト・「き」業を
元気にする

B-II 「き」業

目的

誘致・育成支援・連携強化と高付加価値化により、地域の産業、企業および事業所を活性化

活用

- a 商工会議所・商工会・東濃信用金庫等関係機関との連携体制
- b 企業誘致による企業増及び関連企業の市内進出
- c 創業者ネットワーク 異業種交流会

事業

- ① き業展・企業お見合い
- ② 企業誘致した企業と地場産業・地元企業とのマッチング事業
- ③ たじみビジネスプランコンテスト・創業支援事業
- ④ 地域通貨導入検討

9 関連事業一覧

No.	カテゴリー	事業名	事業内容	担当部署
1	A にぎわい	観光協会の機能強化	観光協会とTMOとの連携を強化し、多治見市観光政策を大きな方針・共通認識を持って推進する体制をつくる。	観光G
2		インバウンド観光誘客の推進	外国人観光客の誘客を進める。美濃焼、滞在型観光等。	観光G
3		広域観光連携の推進	東美濃地域を面的に捉え、広域的な周遊観光の取組を進める。	観光G
4		中心市街地活性化事業の推進	再開発ビル、ヒラクビル、たじみ創造館を拠点とし、メインプロムナード（駅前商店街か〜ながせ商店街〜オリベストリート）への出店促進、誘客を進める。	労働G
5		空き店舗対策強化プロジェクトの推進	空き店舗の確保、出店促進のため、調査と補助制度などの活用により、出店者とのマッチングを行う。	労働G
6		観光農園の推進 廿原宮農・もみじかえで	農業の付加価値を上げるため、観光・食堂・美濃焼とのコラボレーションを促進。	農林G
7		セラミックバレー振興補助金の活用	美濃焼の産業観光を推進するため、オープンファクトリーや滞在型作陶施設の整備などに積極的に取り組む事業者等を支援。	観光G
8		地域主体の観光誘客支援	市内3地域のオリベストリート地域の魅力発信について、地元住民自らが実施する活動について協力支援を行う。	観光G
9		着地型観光体験プログラム「多治見のこみち」の推進	“多治見市ならではの”当地色ある体験プログラムを造成し、“このまちを知り、このまちにくる”きっかけとなる着地型観光のコンテンツである「多治見のこみち」事業を継続して実施する。	観光G
11		たじみビジネスプランコンテスト	中心市街地への出店促進及び多治見市の新産業・起業家創出事業の推進のための事業。高校生部門である「T A J I C O N ハイスクール」も同時開催。	労働G
16	A にぎわい	高田テクノパークへの企業誘致	高田テクノパークに企業を誘致することで、新たな雇用を生み出し、税収を確保する。	企業誘致
10		セラミックバレーの推進	窯元、商社、関連企業や陶芸家が多く集まる陶磁器産業の盛んな、なだらかな山と盆地の連なるこの地域を「セラミックバレー」と新たに名付けて、さらに発展させ国内外へ発信していく。	観光G
12		オープンファクトリー整備事業者との連携、イベントの実施	一部地域もしくは市内全域で美濃焼産業の工場見学ができる催事の開催を計画し、市内外からの誘客を行う。	観光G
13		陶磁器製オブジェや陶壁、モザイクアート等の活用	市内に点在する陶磁製のオブジェや陶壁等は、陶磁器産地の特色であり魅力ある作品であり、所在地マップの作製し市内散策ルートと活用することにより新たな観光資源として活用する。	観光G
14		新製品開発等へのデザイン・技術面での支援	3Dプリンター活用のための研究会・勉強会の開催	意匠研
15	A にぎわい	農業の新しい事業者を主体とした6次産業化	（一社）フォーレサンノクラによる地元の農産物（いちご、ブルーベリーなど）の天然酵母を使用したパンの製造・販売を軌道に乗せるための支援。	農林G
17		多治見で働く Project	多治見市の事業所における採用難に対する事業。魅力のある市内の企業を厳選し、求人サイトやSNSによる情報発信と、求人マッチングイベントの開催を行う。多治見商工会議所主催、多治見市共催。人口減少対策の主要事業にも位置付ける。	労働G
18		人財育成機能の充実	ishoken gallery での若手卒業生による展覧会とそれに伴う特別実習等、魅力ある研修を実施。	意匠研
19		誘致した企業へのアフターフォロー、情報発信	誘致した企業へアフターフォローを行う中で、地域貢献活動事業や企業間交流を進め、企業誘致効果の最大化を図る。	企業誘致
20		研究生募集強化・外国人研究生受け入れ	大学・高校等への直接訪問や移住定住促進策のPR及び国際交流室の活性化により研究生を確保	意匠研
21	B 活力	「き」業展の開催	ビジネスフェア「き」業展。今年度は17回目を迎える。県内最大規模で開催。来場者数や契約締結数等を落とさず、実行委員会形式によるイベント企画により、毎年度新しい試みで実施。	労働G
22		企業お見合い	B to B に特化した、ビジネスマッチングイベント。今年は13回目となる。最近では受注事業者の減少がみられ、人手不足、受注過多という傾向にある。	労働G
23		創業支援セミナー・起業支援センター	産業文化センターの起業支援ルーム9室を設置。創業者へのサポートを行うマネージャーを配置。また、創業支援セミナーも関係機関と連携して取り組んでいる。昨年度からビジネスプランコンテスト事業とも連携。	労働G
24		たじみビジネスプランコンテスト	中心市街地への出店促進及び多治見市の新産業・起業家創出事業の推進のための事業。高校生部門である「T A J I C O N ハイスクール」も同時開催。（再掲）	労働G
25		陶磁器製品品質管理支援	依頼試験や技術的相談等を通じて、安心・安全な製品流通への支援を実施	意匠研
26		地域通貨導入検討	キャッシュレス・電子マネーを活用した地域通貨導入について検討。	労働G

10 策定経緯

I 内部会議

1 多治見市経済部 関係部署ヒアリング

令和元年5月30日・31日・6月5日 各部署の現計画進捗確認及び今後の課題抽出
(産業観光課 観光G、農林G、企業誘致課、陶磁器意匠研究所)

2 多治見市経済部 リーダー会議

第1回 令和元年 8月14日 原案の作成

第2回 令和元年 9月 2日 新計画骨子作成

第3回 令和2年 1月20日 最終案の確認及び令和2年度戦略検討

3 庁内会議

(1) 政策会議 令和元年11月26日 産業・観光振興計画の策定について(中間報告)

(2) 政策会議 令和2年 2月25日 産業・観光振興計画の策定について

II 産業観光振興計画策定委員会

第1回 令和元年 7月 1日 現計画の進捗状況報告及び新計画の策定方針

第2回 令和元年 8月 2日 多治見市経済状況の確認と課題抽出

第3回 令和元年10月 2日 新計画の骨子の検討

第4回 令和元年11月13日 新計画の検討

第5回 令和2年 3月25日 計画最終案の確認及び令和2年度戦略の検討

III パブリックコメント

令和2年2月20日(木)～令和2年3月22日(日)